

相談の入口(田中さんからあなたへの相談)

主任相談支援専門員のあなたは、相談支援従事者初任者研修で、受講者だった田中さんの実習を担当しました。

その後、ナミさんの相談支援を担当している相談支援専門員の田中さんから、主任相談支援専門員のあなたに連絡がありました。

地域では、ケアマネジメント検証の機会として、すでに実地教育(OJT)が開始されているため、田中さんの事例を地域の相談支援の皆さんに考えてもらう GSV への提案をしたところ、田中さんは承諾してくれました。

そして、田中さんの相談支援事業所を訪問する日時を約束しました。

面談の概要(田中さんによる担当ケースの説明と悩みの打ち明け)

私（田中さん）が担当しているのは、ナミさん、24歳の女性です。

最初の面談は、母親と共に来所〈1年前〉されました。市役所に紹介され、母親がナミさんを連れて相談支援事業所を訪れました。

面談には、ナミさんも同席していましたが、横を向いていて、話しかけても全く答えようとせず、母親との一方的な面談になりました。

ナミさんの母親は、「私の娘に障害はありません。学校では、軽度知的障害の疑いがあると、無理やり特別支援学級に入れられました。今でも、学校と教育委員会の対応には不

満があります。今は、私と娘の二人暮らしで、夫とは娘が小6のときに離婚しています。

私は、市立病院で事務職をしながら、女手一つで一生懸命娘を育ててきました」と話していました。

ナミさんは、小学校時代からダンスが得意で、人気歌手の振り付けを完璧に覚えることが出来たようです。高校は、地元の私立高校になんとか入学でき、母親が送り迎えをして卒業近くまで通いましたが、学校でいじめられたことが原因となって退学しています。

その後しばらくは自宅から外出できない状態でしたが、中学時代の恩師に支えられ、何とか外出できるようになったと母親は話していました。

ナミさんは、駅前のファストフード店に行くことが好きで、一人で過ごすことも多かったですが、中学時代の友人と再会し遊び仲間（旧ダンス仲間）となったようです。

夜遊びが多くなり、朝方に帰宅し昼間寝て夕方から出かけるような生活となり、困った母親は、中学時代の恩師に相談しましたが、先生も体調を崩しており、先生とのかかわりも途絶えてしまいました。

その後はナミさんが自宅に戻らない日が増え始め、帰宅すると高額なアフセサリーを身に着けているので、母親が問いただすと、働いて買ったと答えたそうです。

その時に、風俗店で働いていることを聞き出した母親は、風俗店で働くことだけは許せず、お店にも掛け合ったようですが、辞めさせることはできなかったと話してくれました。

ナミさんは「彼氏が欲しい」「お金が欲しい」と口にすることが増え、うるさい母親から離れて「一人暮らしがしたい」と願っています。

そんなある日、恩師から母親へ電話があり、「市役所に行って知的障害者の手帳の申請をしてはどうか、福祉作業所などの福祉サービスを利用したらどうか」と諭され、市役所に相談に行ったとのことでした。

その後、療育手帳（Ｂ２）を取得し、市役所から紹介されて、ナミさんは私（田中さん）の相談支援事業所に無理やり連れて来られました。

私は、この相談支援事業所では２年ほど働いています。社会福祉士の資格も取得し、毎日やりがいを感じて仕事をしてきましたが、１年ほど前から担当になったナミさんがあまり好きになれず、仕事を続けられるか悩んでいます。